

## ドラマ「セカンドバージン」と 総合取引所

日本証券業協会 副会長  
森 本 学



「セカンドバージン」は、2010年秋にNHKで放送されたドラマである。出版社の女性辣腕編集者（鈴木京香）と17歳年下の若き官僚（長谷川博己）との禁じられた熱愛を描いたもので、NHKにしては過激なベッドシーンもあって当時は注目を集めた。ところで、このドラマにはもう一つ隠れたテーマがあり、それは「総合取引所」であった。

主人公は金融庁の理想派官僚として、総合取引所を直ちに実現しなければならないという意欲に燃えている。金融庁企画局長のホームパーティーでの二人の運命的出会いの時も、彼は自説を滔々と述べる。「株とコモディティは同じ口座で取引できない、そんな遅れた国は日本だけなんです」「経産省と金融庁の垣根は取り払わなければなりません」「今やらなければ、日本の金融市場はアジアのローカル市場に成り下がってしまうんです」などと。これに対して彼女は、その純粋な使命感と若者らしい行動力に次第に魅かれていく。

金融庁の上司たちは、「経産省が権限を手離すことなど有り得ない」とか「待つのも戦略のうちだぞ」などと様子見を決め込む。しかしドラマでは、彼の猪突猛進により総合取引所は1年後に実現するのだった。

このドラマが放送されたとき、私は金融庁の総務企画局長として総合取引所問題に取り組みはじめたところだった。2010年6月の政府の成